

ディプロマポリシー（草薙・瀬名C）

教養教育科目

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
基礎的な知識を土台に、他者と議論することによって理解を深めることができる。	現実を直視し、理想と現実の間に問題を発見し、解決ができる。	専門領域にとどまらず、幅広く学問的好奇心を持つことができる。	現状に甘んじることなく、より高きを目指すことができる。	獲得した知識・スキルを、国家・社会・地域のために活用することができる。

学校教育課程

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
教科等の指導で必要になる基本的な事項を身につけるとともに、児童生徒の実態に合わせて授業教育活動を構成するための理論的理解を深めることができる。	学術的に裏打ちされた確かな判断、批判的思考力や論理的な表現力を持ち、教育現場においては対話型教育で培った力に基づいて協同協働的に結論を導き出すことができる。	教育の意義と育てたい児童生徒像を追究し続け、学校教育で必要な実践的指導力とは何かを考え続けることができる。また、その追究のために自律的に学び続けることができる。	規範意識を高く持ち、社会の一員としての役割と責任を果たし、地域に貢献する心を持ち続けるとともに、教科・教育に関する知識や技術および指導力の向上を自らに常に課すことができる。	「少人数教育」と「指導教員制」で培われた教科教育授業および児童生徒指導の実践力を駆使して、子どもの興味や関心を引き出す授業教育活動・教材づくり（地域教材等）ができる。

生涯学習専攻

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
社会教育の専門的職員や生涯学習支援者としての専門的知識を理解している。また、地域課題を解決するための問題解決能力を身につけている。	学校、家庭、地域社会の連携を推進するためのコーディネーターとしての能力、それぞれの教育力を高めるためのファシリテーターとしての能力を身につけている。	生涯学習社会の理念を理解し、その実現への高い使命感を持つことができる。また、生涯学習領域における実践的関心のみならず研究的関心を幅広く持つことができる。	生涯学習社会の実現に向けて、「新しい公共」の形成のための社会貢献活動等を自ら行うことができる。さらに、その活動のための自己研鑽を生涯にわたり行うことができる。	地域における生涯学習振興計画・社会教育計画の立案およびその評価を行うことができる。あわせて、個別の学習プログラムにかかわる専門的な企画、運営および評価を行うことができる。

生涯スポーツ専攻

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
生涯にわたって健康の保持増進の知識を理解するとともに、身体の諸器官の機能、体力の向上および安全な環境づくりなどの知識を獲得している。	生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を養うために、スポーツの合理的な実践法、指導者の観察法、健康づくりなど豊かな思考力と創造性を養い、自己課題に応じた実践の工夫ができる。	生涯スポーツに関わる教養、幅広い知識・技能を体系的かつ総合的に身につけるために、コミュニケーション能力を培い、常に高い意欲と柔軟な感性を持って、学問を追究することができる。	「スポーツ」「健康」の探究に自主的・主体的に取り組むとともに、専門領域と他領域の融合から、幅広い知識を活用する実践力を身につけるようにする。	健康保持増進のための生活習慣や身体運動に重点を置きながら、生涯スポーツに活かせる理論と実践の架橋から、実践知を獲得することができる。

心理教育学科

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
心理学全般にわたる基礎的知識を土台に、臨床心理学および発達臨床心理学的支援に関する専門知識や技能を理解し、備えている。	社会の中にある様々な物事を、主観に流されることなく客観的な視点からとらえるとともに多面的・批判的に考察することができる。	人間の心の動きやあらゆる営みに関心を持ち、その理解や支援のスキルを社会に役立てようとする強い意欲を持つことができる。	自分自身を含む人間の心や行動について客観的によく理解しようとすることができる。さらに、他者を受容的・共感的に理解しようとするすることができる。	情報を的確に収集・評価できる分析力、対人援助の実践力、発達理解の応用力を習得し、地域や社会のために活用することができる。

外国語学部

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
世界諸地域の言語・文化・歴史・社会に関する専門的な知識を修得している。	物事を国際的な視点から柔軟にとらえ、問題解決に結びつけることができる。	国際化する地域社会の言語、文化、社会の問題に広く関心を持つことができる。	社会貢献に必要な協働する姿勢を身につけ、国際社会と地域社会のいずれにおいてもより高きを目指す一歩にできる。	実践的な外国語運用能力を身につけ、それを活用できる。国際化する地域社会で働く上での実務的なスキルを身につけ、それを活用できる。

英米語学科

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
英語や英語圏の文化・歴史・社会に関する専門的な知識を修得している。	英語や英語圏文化の知を生かして、問題を発見し、解決に結びつけることができる。	英語圏の文化的・社会的な問題に広く関心を持つことができる。	国際化する地域社会に貢献する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。	実践的な英語運用能力を身につけ、それを活用できる。国際化する地域社会で働く上での実務的なスキルを身につけ、それを活用できる。

グローバルコミュニケーション学科

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
複数の地域の言語および文化・歴史・社会に関する専門的な知識を身につけている。	複数の地域の言語や文化の知を生かして、問題を発見し、解決に結びつけることができる。	複数の地域の文化的・社会的な問題に広く関心を持つことができる。	国際化する地域社会に寄与する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。	複数の言語の実践的な運用能力を身につけ、それを活用できる。国際化する地域社会で働く上で必要な社会人基礎力や実務的なスキルを身につけ、それを活用できる。

経営学科

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
経営学の基礎知識・基本理論を幅広く修得したうえで、経営・会計・情報、関連する経済分野における専門性を身に付けている。これらの専門知識を体系的に理解している。静岡県をはじめとする地域経済や環境問題等の現代社会の諸課題を理解している。	修得した経営学の基礎知識を活用して、自らが取り組むべき課題を解決するための思考・判断をすることができる。経営学の基本理論を、経営・会計・情報、関連する経済分野において包括的かつ実践的に応用できる。	企業や行政機関で活躍するためのチャレンジ精神と実践力を持っている。仕事をととして自己実現を図り、地域社会に貢献しながら自らも成長したいという意欲をもっている。複雑化・多様化する社会の中で新しい課題を発見することができる。	静岡県をはじめとする地域の発展に貢献するための知徳を兼備する。人として地域社会に生きる“術”や豊かな人間関係を築くことができる。将来の自己実現に向けて、継続的に主体的に学習に取り組むことができる。	さまざまな業種・職種において必要とされる基本的な技能を身につけている。修得した知識や技能を活用し、思考・判断したことを、社会の中で実践に結びつけていくことができる。また、必要に応じて、体験したことや思考・判断したことを適切に記録、要約、説明できる。

社会環境学科

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
環境・防災分野の専門知識を有し、環境や防災の課題について、自然環境と人間社会の相互関係から把握し理解することができる。	環境・防災分野に関する専門知識を基に、地域社会の中でくらしを営む“ヒト”の視点から問題を発見し、最適解を探求することができる。	環境や防災の問題にとどまらず、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、社会の抱える課題の解決のための幅広い学問的好奇心を持つことができる。	環境課題や防災課題を克服した持続可能な社会システムの構築を目指すことができる。	環境問題の解決や安全な社会システムの構築のために、実践的な知識、素養、技術を身に付け、広く社会に貢献できる。

保育学科

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
保育の基礎的な知識を土台に、実践を通して、専門性の理解を深めることができる。	保育課題について自ら考え、解決方法を提案することができる。	保育課題に関心を持ち続け、解決に向けて取り組む意欲を維持することができる。	保育課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。	子どもの感性や創造力を引き出す表現力と技能を活用することができる。

造形学科

DP1 知識・理解	DP2 思考・判断	DP3 関心・意欲	DP4 態度	DP5 技能・表現
アートやデザインの基礎及び専門知識について言語化できるとともに、作品制作や企画、設計、教育等に活かすことができる。	広い視野と柔軟な発想、批評的な考え方をもとにして、芸術性と社会性の両面で問題の発見と解決の提案ができる。	アートやデザインの世界的な動向に関心を持つ一方、地域社会における芸術や産業の現実を直視し、文化や産業の発展に関心を持つことができる。	人と芸術の関わりや創造的活動の持つ深い精神性を理解するとともに、多様な人々と協働して他者や社会にそれらの価値を普及、還元するための適切な行動ができる。	アートやデザインの専門的な知識・技能を、作品制作や研究、社会実践活動に活用することができる。

国際言語文化研究科（英米言語文化専攻）

英米言語文化専攻では、修了に必要なと定められた単位を修得し、修士論文審査に合格した者には、学位「修士（英米言語文化）」を授与する。

1. 英語や英語圏の文化、文学、英語教育等の専門的知識と判断力
 - (1) 英語や英語圏の文化文学、英語教育に関する優れた専門知識を身につけている。
 - (2) 探究した専門分野の研究に必要な思考力と判断力を身につけている。
2. 国際人としての広い視野と高い英語運用能力
 - (1) 研究の遂行に必要な英語運用能力を身につけている。
 - (2) 国際人としての役割を理解し、その役割を果たす意欲と関心を身につけている。

国際言語文化研究科（国際教育専攻）

国際教育専攻では、修了に必要なと定められた単位を修得し、かつ修士論文審査に合格した者には、学位「修士（国際教育）」を授与する。

1. 複雑化する国際化社会を理解する専門的知識と判断力
 - (1) 世界各地の地域研究、芸術、異文化理解、あるいは教科教育に関する優れた専門知識を身につけている。
 - (2) 探究した専門分野の研究に必要な思考力と判断力を身につけている。
2. 国際人としての広い視野と高い言語の運用能力
 - (1) 研究の遂行に必要な言語運用能力を身につけている。
 - (2) 国際人としての役割を理解し、その役割を果たす意欲と関心を身につけている。

環境防災研究科

環境防災研究科では、学際的総合的な研究により環境問題と防災問題の関連性を理解した上で、環境を重視した専門的知識ならびに、防災を重視した専門的知識の教育研究を行うことにより、災害と環境の変化に対して立ち向かう高度の専門的知識を備えた職業人の育成を第一の目的としている。修了時には、環境・防災問題の被災機構ならびに回復過程を総合的に解明する能力、国内外の企業・研究機関や行政組織等で専門的実務能力、環境防災問題を解決し持続可能な社会の実現に寄与することができる能力を十分に備えていることを証明することが求められる。修士課程における講義科目の履修と修士論文作成を通して、上記の目的が達成されたと判定されるときには、修士（環境防災）の学位を授与する。

学校教育研究科

学校教育研究科は、義務教育段階の教育現場に対し、「即戦力の新人教員」ならびに「スクールリーダー」（中核的中堅教員）を育成することを使命としている。

そのため、所定の修業年限在学し、修了要件（最低履修単位数）を満たした「学部卒学生」について、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や人間関係調整力、③児童・生徒理解や学級経営等の力量、④教科内容等の指導力、⑤学校経営に参画する意欲、力量、⑥静岡県の地域課題への対応力など、「授業づくりと学級経営に関する実践的な指導力・展開力を備えた新人教員」としての資質能力を身につけていることを総合的に判断し、修了判定を行う。

また、「現職教員学生」については、上記①～⑥に加え、⑦管理職を補佐する能力、⑧学校の課題の分析・対応能力など、「学校づくりの中核を担うことのできる高度な専門性を備えた中堅教員」としての資質能力を身につけていることを総合的に判断し、修了判定を行う。修了者には、学位「教職修士（専門職）」を授与する。

短期大学部 日本語日本文学科

DP1 自主独行	DP2 日本語・文学・文化	DP3 判断・協働・企画
科の教育理念「自主独行」に従い、自らの目的に応じた科目選択・単位修得ができてきていること。	日本語や日本文学、日本文化の基礎がどれほど身につけられたかは卒業研究で判断される。この研究を作成する過程で、情報を収集する力、情報を考察する力、論理を構成する力、文章をまとめ、発表する力を身につけていること。	授業や行事を通じて、判断する力、協働する力、企画する力などを育成していること。

短期大学部 保育科

DP1 関心・意欲・熱意	DP2 知識・実践力	DP3 保育環境・実践力	DP4 知性・教養・貢献
保育者としての関心、意欲、熱意を身につけている。	保育及び家庭支援に関する専門的知識と実践力を身につけている。	保育にふさわしい環境を理解し、子どもと一緒に生活を作り上げる実践力を身につけている。	知性と教養を修得し、社会の一員として、また保育者として貢献できる力を身につけている。

短期大学部 音楽科

DP1 作曲・演奏技術	DP2 知識	DP3 判断力・自律性	DP4 コミュニケーション能力
音楽の基本的な知識を理解・身につけている。	演奏・創作技術を身につけている。	様々な知識を総合的に活用して、自らの表現を探究できる。	自身の課題を的確に把握して研究方法などを考え、或いは助言を求めするなど、問題を解決するために適切に判断できる。

短期大学部 専攻科音楽専攻

DP1 作曲・演奏技術	DP2 知識	DP3 判断力・自律性	DP4 コミュニケーション能力
自らの創意工夫による豊かな表現のため、確かな作曲と演奏技術を身につける。	自らの創意工夫による豊かな表現が裏打ちされたものとなるよう、確かな知識を身につける。	作曲と演奏に必要な作品研究や作曲と練習活動を、自ら考え実行できる判断力、自律性を身につける。	自らの考えを他人に的確に伝え、また、他人の考えを聞いて意見交換できるコミュニケーション能力を身につける。

ディプロマポリシー（水落C）

教養教育科目

DP1知識・理解	DP2思考・判断	DP3関心・意欲	DP4態度	DP5技能・表現
基礎的な知識を土台に、他者と議論することによって理解を深めることができる。	現実を直視し、理想と現実の間に問題を発見し、解決ができる。	専門領域にとどまらず、幅広く学問的好奇心を持つことができる。	現状に甘んじることなく、より高きを目指すことができる。	獲得した知識・スキルを、国家・社会・地域のために活用することができる。

法律学科

DP1知識・理解	DP2思考・判断	DP3関心・意欲	DP4態度	DP5技能・表現
法・政策に関する専門知識を土台に、社会の状況を適切に理解できる。特に、現代社会において基底的価値をなす自由・平等・人権・民主主義といった基礎概念について十分に理解できる。	現実を適切にとらえ、その問題を発見し、解決法を検討できる。適切な情報の収集・選択を行う情報リテラシーを身に着け、客観的かつ合理的な社会認識に基づき論理的な思考・判断ができる。	社会に関心を持ち、その中で生きる自分と社会の関わりについて考察することができる。社会の基底的価値に関する理解に基づき、社会や自己についてより好ましい在り方について検討できる。	社会や自己の状況に関する適切な認識を元に、自らの在り方を作り上げることができる。自らの意思に基づいて主体的に行動し、社会正義の実現のため積極的に関与できる。	市民として他者と適切にかかわり社会生活を送ることができる。他者と適切にコミュニケーションをとることで、自らの意思の内にある社会像・自己像に向かうことができる。

看護学科

DP1知識・理解	DP2思考・判断	DP3関心・意欲	DP4態度	DP5技能・表現
看護専門職として、専門的な知識を土台に、人を包括的に理解することができる。	看護専門職として、様々な健康レベルにある個人・家族・集団の健康課題を見出し、計画的に看護を実践できる。	看護専門職として、変化する社会の中で、継続的・発展的に自己を向上させるために必要な専門性を探究する意欲を持つことができる。	看護専門職として生命の尊厳を重視し、人権擁護の責務を担う者として、必要な倫理観、豊かな人間性を高めることができる。	看護専門職としての自覚を持ち、様々な職種と連携しながら、ヒューマンサービスを提供できる。

静岡理学療法学科

DP1知識・理解	DP2思考・判断	DP3関心・意欲	DP4態度	DP5技能・表現
理学療法士としての専門的知識、実践力を身につけている。国際化に対応した知識、視点を身につけている。	患者に必要な情報を収集し、状況に応じて適切な判断することができる。	チーム医療において信頼関係を構築し協働する中で、理学療法士の重要性（役割）を自覚できる。理学療法の実践のため、臨床の場において疑問や好奇心を持つことができる。	生命に対する深い畏敬の念と倫理観を有している。	自己の専門性を発揮し、実践できる能力を有している。 良好な人間関係を築くため患者・医療従事者とコミュニケーションをとることができる。 臨床の場において疑問を解決するため、資源（文献検索、研究など）を活用することができる。

カリキュラムポリシー（草薙・瀬名C）

教養教育科目

人生100年時代を健康で安全に豊かな人生を送ることを目指し、4つの科目群（Ⅰ 健康な人生を送るための科目群、Ⅱ 社会の営みを知るための科目群、Ⅲ 豊かな人生を送るための科目群、Ⅳ 未来社会を生きるための科目群）からなる教養教育科目を設定する。また、学部・学科や地域性の特徴を活かした科目を、学部共通の教養科目として設定する。基礎的で幅広い知識やスキルを身につけるだけでなく、社会での実践力を養成するために実践的な科目も配置する。

学校教育課程

ディプロマポリシーを達成できるように、基礎・理論的な科目を1・2年次、発展・実践的な科目を3・4年次に配置している。また、各科目群は以下の考えで配置している。

- ・教科教育科目群、教職専門科目群（発展的科目）は、教科および教職の専門知識と指導技術を基盤とした教授法を段階的に学びながら、豊富なアイデアを生み出せるように配置する。
- ・教科教育科目群・教職専門科目群（実践的科目）は、教育の意義を認知し、柔軟に教育を行う思考を育み、論理的表現力や、批判的思考によって共同協働作業を円滑に行うことができるように配置する。
- ・専攻科目群は、学術的思考に裏打ちされた一般的・包括的内容を発展的内容へと昇華させ、探究心と豊かな人間力が育つように配置する。
- ・教職専門科目群（基礎・理論的科目）は、教師力の素地を確立し、高い規範意識で総合的な判断力を持って行動ができるように配置する。
- ・実習科目群・特別支援科目群は、対話力を磨きながら、他者を受け入れ、自身の考えを精練し、技能を駆使した表現活動を通して、子ども・家庭・地域に貢献できる柔軟なコミュニケーションができるように配置する。

生涯学習専攻

専攻科目は、教養教育科目および学科共通科目で生涯学習支援にかかわる基礎的な資質・能力を身につけた上で、社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員など、社会教育の専門的職員や生涯学習支援者として広く活躍する人材養成のための科目を体系的に配置する。その際、人間関係能力、実践能力および研究能力の習得を目指すため、理論面に加え、演習、実習、実技、特別研究および課題研究等の科目を効果的に配置する。

生涯スポーツ専攻

人々が生涯にわたり豊かな生活を送るために、生涯学習に関する理論・実践を通じ、生涯スポーツに関わる広い知識・技能を体系的かつ総合的に身につけるために、演習・実践科目を適切に配置する。

心理教育学科

まず、心理学（特別支援を含む）を広範に学ぶとともに、概論的知識からより専門的な各論へと展開される学習の系統性を重視して科目を配置する。次に、実習や実験等の体験を重視した授業を多く取り入れ、科学的な分析力と援助のための適切なスキルの定着を目指して科目を配置する。最後に、体験的な学習や研究等における学生同士や教員とのコミュニケーションの中から、専門的な知識や技能だけでなく、人間を理解しようとする態度を身につけることを目指して科目を配置する。門的な知識や技能だけでなく、人間を理解しようとする態度を身につけることを目指して科目を配置する。

外国語学部

外国語の実践的な運用能力に加え、グローバルな問題を理解し、それを解決するために必要な幅広い教養と専門知識を修得するために、以下のような教育課程を編成する。

- ・外国語の実践的な運用能力を高めるための外国語科目群を、学習者の習熟度や選択別によるクラス編成で編成する。
- ・国際化する地域社会で必要とされるスキルを身に付けるため、「共生力」「社会人力」「語学力」「異文化理解力」の4つの領域に分類した科目群を学部共通科目として配置する。
- ・学生自身が学びを自由に組み立てることができるように、一方の学科の学生が他方の学科の専攻科目を履修することができる「相互履修制度」を構築し、学生の多様な学びを可能にする。
- ・実践的な語学力を身に付け、外国文化を直接に学ぶ機会として、海外語学研修・留学を単位化し、その科目を学部共通科目及び専攻科目に配置する。
- ・世界諸地域の言語、文化、社会、歴史についての専門知識を修得し、グローバル社会の諸問題に取り組むために、各学科に専攻科目を配置する。
- ・授業でのグループワーク等を通して課題解決に取り組むことにより、社会人の基礎となるコミュニケーション力や協働力を伸ばすための科目を開設する。

英米語学科

英語の実践的運用能力を高め、英語圏の歴史、文化、社会に関する幅広い知識を深め、国際化する地域社会で活躍するための問題解決能力を育むため、以下のような教育課程を編成する。

- ・英語の実践的運用能力を効果的に養成するために、4技能統合型の英語スキル養成科目を配置する。また、国際化する地域社会で活躍できる高度で実務的な英語能力を育成するために、選抜された学生の科目である AEP (Advanced English Program) を配置する。
- ・国際化する地域社会への貢献を念頭に、英語圏の言語、歴史、文化、社会に関する知識を深めるため、学生それぞれの問題意識にしたがって履修できる講義科目を段階的に配置する。
- ・英語圏の言語、歴史、文化、社会に関する知識を深め、国際化する地域社会の問題解決能力と創造的な思考力を養うために、3年次から「専門セミナー」の科目群を設け、そこに主体性を持って他者と協働する科目（「専門セミナーI」および「専門セミナーII」）を配置する。
- ・4年間の学びの集大成として、自身で設定した問いを追求し、それをまとめた卒業研究を作成させる。
- ・異文化理解の深化と英語力の向上を目的とする「海外英語研修」と英語教職履修者の英語力と英語教授に関わる専門的な知識を海外の大学で身につける「英語教育海外研修」の2つを専攻科目に配置する。
- ・中学校、高等学校の一種免許状（英語）の取得のための科目を配置する。

グローバルコミュニケーション学科

複数の言語の実践的運用能力を高め、それらの言語が使用されている地域の歴史、文化、社会に関する幅広い知識を獲得し、国際化する地域社会で活躍するための問題解決能力を育むため、以下のような教育課程を編成する。

- ・【GC 社会人基礎力養成科目】TBL (Team-based Learning、チーム基盤型学習) と PBL (Problem-based Learning、課題解決型学習) を通して、自立した社会人としての基礎力と社会的課題を解決する力を養うため、1年次から2年次まで「協働研究セミナー」を配置し、必修とする。
- ・【GC キャリア開発科目】国際化する地域社会で活躍する力を育むため、1年次後期から3年次にかけて GC 学科生に特化した「GC キャリア開発科目」を配置する。
- ・【外国語コミュニケーション科目】言語能力指標の国際的基準である CEFR に準拠したレベルゲージを使用し、各言語共通の学習到達度指標を設定した上で、1年次後期から4年次まで、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語、中国語、韓国語の中から少なくとも2言語を修得する。また、国際語としての英語のコミュニケーション能力を高めるため、1年次から3年次まで英会話科目を配置する。
- ・【Area Studies】東アジアやスペイン・ラテンアメリカの文化・社会に関する専門的な知識を獲得するために「Area Studies」を配置する。2年次から3年次から順次発展的科目を設置する。
- ・【Cross-cultural Studies】複数の地域の言語・文化・社会・歴史等に関する知識を深めるため、語学研修科目や臨地実習科目、多文化共生・コミュニケーション関連の科目を設置し、異文化理解についてのスキルや方法論を学ぶ。
- ・【卒業研究】専門講義を通じて深めた知識や経験をもとに4年間の学びの集大成として、卒業研究を3年次後期から4年次後期まで配置する。1年次と2年次の「協働研究セミナー」を通して養った課題解決力をもとに、社会的課題を自ら発見し、適切な手法を用いて「答え」を見出す。自らの意見や考えを適切に表現・発信する力育む。

経営学科

経営学とその関連領域の体系的学修と経営学教育の質保証をめざすために、まず、専門基礎科目において、専門科目を学ぶ上での導入科目を配置する。専門基礎科目の学修の上に、幅広い関心をもたせ、人間形成を促し、応用力を培う経営・会計・情報・経済の4分野の科目を配置する。また、キャリア支援のための専門関連科目、教職を強く希望する学生のために教職科目を配置する。さらに、専門教育科目の個々の学びを体系化し、4年間にわたる大学の学びの集大成として卒業研究をまとめ上げることを目的とする演習・卒業研究科目を配置する。

社会環境学科

専門教育科目は、環境問題の解決や社会の安全確保のための社会システムの構築を目指し、広く社会に貢献できる人材を育成するため、関連する自然科学分野を柱としながら、地域社会の中で暮らしを営む“ヒト”の視点を扱う社会学分野を配置する。それは、「環境」および「防災」両分野の基礎理論・知識、歴史的理解、基礎的技術等を修得するために必要な「専門基礎科目」と、社会環境学部を構成する2コースの学びの目的に沿った専門知識・技術を修得するための「コース専門科目」、および社会環境学部における教養教育科目、専門教育科目の学修結果を踏まえ、これらの知識を統合し、良識ある社会人となるための「総合演習科目」から構成されている。

保育学科

今日の保育課題・地域のニーズに適切に対応することができ、共同体感覚に優れた社会性のある保育者の育成を目指す。専門教育として3つの履修モデルを提示する。

「保育心理学履修モデル」では、子どもを客観的に捉え分析できる能力と広い視野を身につけた保育者を目指し、保育学・心理学関係科目を配置する。

「子育て・療育支援履修モデル」では、発達障害を取り巻く環境や体力低下や食生活を中心とした基本的な生活習慣の課題についての課題を研究し、解決策を提案できる保育者を目指し、特別支援教育・健康教育・食育関係科目を配置する。

「感性教育履修モデル」では、音楽や造形表現を柱とし、子どもの成長に寄り添う豊かな感性・表現力と実践力を持つ保育者を目指し、音楽や造形関係科目を配置する。

造形学科

- ・学部共通科目、学科専攻科目、大学が独自に設定する科目、教職科目および博物館関連科目を配置する。
- ・学部共通科目は、造形全般の基礎的知識や領域を越えた幅広い知識を学修し、総合的な観点から造形活動をとらえられるよう諸科目を配置する。
- ・学科専攻科目には造形理論科目、共通表現基礎科目のほか、アート領域、デジタルコミュニケーションデザイン領域、環境デザイン領域を設け、各領域の専門科目を配置する。造形理論科目は、各領域に準じた専門的な知識を得るための科目だが、領域を越えて選択できるように配置する。共通表現基礎科目は、造形活動に必要な基礎的な技術を身に付けられるよう初年次に配置する。各領域の専門科目は、学生が所属する領域に分かれ、段階的に専門的な知識と表現技術・技法を習得できるように配置する。
- ・大学が独自に設定する科目、教職科目は教職の育成のために、博物館関連科目は学芸員の育成のために配置する。

国際言語文化研究科（英米言語文化専攻）

1. 英語の運用能力を高め、英語に関する専門的な知識を養うための「英米言語コミュニケーション研究」分野と、英語圏の文化や文学、英語教育に関する専門的な知識を養うための「英米文化研究」分野の2領域の科目群を設ける。
2. それぞれの科目群で学んだ専門的な知識を統合し、修士論文作成に必要な専門的知識、学術的リサーチ能力、学術的分析能力を養成するために「英米言語文化演習Ⅰ、Ⅱ」を配置する。
3. 国際的な視野に立ち、幅広い専門的な知識が学べるように、国際教育専攻の科目を横断的に学べるよう他専攻履修を可能とする。
4. 中学校・高等学校教諭の一種免許状（英語）を有する者が、専修免許状（英語）を取得することができるように、教職科目を配置する。

国際言語文化研究科（国際教育専攻）

1. 英語圏を除く世界各地の地域研究、芸術分野、国際理解に関する専門的な理解を深めるための「国際理解」分野と、国際理解を踏まえた教職または教科の内容を深めるための「教職教科」分野の2領域を設ける。
2. それぞれの科目群で学んだ専門的な知識を統合し、修士論文作成に必要な専門的知識、学術的リサーチ能力、学術的分析能力を養成するために「国際教育・国際理解演習Ⅰ、Ⅱ」を配置する。
3. 英語や英語圏に関する幅広い専門的な知識が学べるように、英米言語文化専攻の科目を横断的に学べるよう他専攻履修を可能とする。
4. 小学校教諭の一種免許状を有する者が、小学校教諭専修免許状を取得することができるように、教職科目を配置する。

環境防災研究科

本研究科は、現代社会における、当該専門知識を備えた専門的職業人の育成を主たる目的として設置するが、専門分野における研究者を志す学生に対しては、それぞれの進む専門分野研究の基礎となる素養を与え、専門分野研究の方法を体得させた後、当該関連分野の後期大学院に進学させ、専門分野での学問的研究の深化を図る。専門的職業人の育成に当たっては、現職者等にも勉学し易い環境を準備する。

（環境及び防災を研究教育の2つの柱とする）

本研究科では環境の急激な変化によって生ずる災害と、緩慢に推移する事による環境問題に対する人間社会の対応と、安全で安心な人間社会を形成するための計画の在り方を研究教育の目標とする。教育課程の特色としては、「環境」と「防災」を独立した学問分野としてとらえるのではなく、双方の関連性を重視した分野融合的な観点から、「環境問題」と、「防災問題」を解明する能力の育成を目的とし、「環境マネジメント」及び「防災マネジメント」を研究教育の柱とする。

このため教育課程においては、環境と防災の関連性や分野融合の必要性を理解するための教育の基礎となる「共通科目」と、防災問題ならびに環境問題の各々の応用・展開科目にあたる「専門科目」に大別し、「専門科目」は防災に重点を置いた「防災系科目」と、環境に重点を置いた「環境系科目」に分類する。

「防災」においては、自然災害などの外力により人間社会にもたらす影響を、被害の態様の解明ならびに、緊急対応期から復旧・復興あるいは再生に至るまでの一連のプロセスとして理解し、災害に対応し持続可能な社会を構築していく方策を模索する。人・地域・社会の防災力を高めるために求められる緊急の事態に対する危機管理、行政・社会制度の確立の在り方について総合的に研究教育を行い、社会における防災の専門職及び防災リーダーを育成する。

「環境」においては、人間活動が広がり様々な開発行為が進むに従って、環境破壊や大規模な災害が発生し、これらが持続可能な社会の実現を阻む要因を生み出していることから、都市や地域において人間社会が地域環境と共生し、災害を引き起こさない開発のあり方、環境保全や開発技術、環境政策のあり方等についての理学、工学、社会科学と地域社会を結びつける方法を学ぶ。

（環境・防災に関する共通科目、防災に関する科目、環境に関する科目からの選択）

本研究科の学生は、「共通科目」、「防災に関する科目」、「環境に関する科目」から、それぞれの指向、進路に応じて授業を選択する。

学校教育研究科

学校教育研究科は、「義務教育段階の実践的な指導力・展開力を備えた新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員」ならびに「学校づくりの中核を担うことのできる高度な専門性を有する中核的中堅教員」を養成するという使命・目的を果たすため、教職大学院制度の趣旨・目的をふまえ、「理論と実践の融合」に資する体系的な教育課程のもとで教育研究を行う。

教育課程は、①すべての学生が共通的に履修する「共通科目」（基礎科目）、②学校現場における今日的課題及び各学生の関心領域に応じた学修と研究を行う「コース別選択科目」、③講義・演習で身につけた基礎的・理論的な知識・技能を教育現場において実践的に応用・適用し、成果と課題を検証・省察するための「学校における実習」の各領域から構成される。

短期大学部 日本語日本文学科

「ライフデザイン」をしっかりと見据え、自主独行の理念を実現できるように次のようにカリキュラムの編成を心がけています。

1. 授業科目は基本的に選択科目で構成し、それぞれの科目内容を見極め、選択する際に関連をつかみ、実効化するように助言する。結果として履修科目の選び方に整合性が生まれるように工夫する。
2. 日本語と日本文学を軸に学び、日本文化への理解を深め、それらを研究することを第一の目的としてカリキュラムを編成する。学修成果を具現化するために卒業研究を必修とし、論理力・構成力・実証力などの能力を具体的に成果としてまとめあげる。
3. 資格科目をより強固にするための図書出版関係の授業や、社会人としてコミュニケーション力やプレゼンテーション力を高めるための科目を設定し、文化領域だけでなく、実務関連領域も充実させる。

短期大学部 保育科

保育者としての実践力を修得し、子ども観・保育観を身につけ、子どもと一緒に生活を考え続けることができ、社会で積極的に協働できる者を養成するため、理論と実践をバランスよく学び、幼稚園教諭二種免許及び保育士資格の取得を可能にするカリキュラムを編成しています。

1. 保育の目的とその意義について学ぶ科目
2. 保育の基礎理論として子ども理解を深める科目
3. 保育を実践するための方法及び技能を習得する科目
4. 家庭と子どもを取り巻く現代社会の状況について学ぶ科目
5. 子どもの表現を理解し、育む援助を習得する科目
6. 現場で実践的に保育を学ぶ科目

短期大学部 音楽科

卒業認定・学位授与の方針を達成し、また、自らを律して行動する力、協調協働する力、問題を解決する力を養うため、次のような方針に基づいて教育課程を編成します。その際、科目によっては能力や特性によってクラスを分割し、各学生の特性にあった支援を行います。

1. 音楽の基本的な知識を学ぶ科目
 2. 音楽に必要な基本的能力の向上をめざす科目
 3. 演奏解釈・表現技法・練習方法・作品分析を各学生の特性にあわせて共に考え、演奏・創作技術の向上を図る実技科目
 4. 演奏形態の1つとして、また、協働する力を養うアンサンブル科目
 5. 指導するために必要な知識・技能を習得する科目
 6. 一般社会での活動で求められる能力を養う科目
 7. 西洋を発祥の地とする音楽を専門に学習することから必要となる、外国語の科目
 8. 幅広い知識と豊かな人格形成を目指す科目
- 更に、課外教育活動として公開レッスンや様々な演奏会等、学生が実体験する機会を設けます

短期大学部 専攻科音楽専攻

専攻科音楽専攻では、個別の徹底した実技指導や多くの作曲と演奏経験を通してより高度な技術とより豊かな表現力を獲得するとともに、様々な作品や演奏解釈を知り、広範な知識と併せ自らの表現が創造できる力を養います。

1. 作曲と表現技法や作品・演奏解釈、練習方法を学ぶ実技科目
2. 様々な作品や演奏解釈を知り、その意図や目的を考える科目
3. 音楽的基礎知識や技能をさらに深化させる科目
4. 西洋音楽を学ぶ上で必要な外国語科目

カリキュラムポリシー（水落C）

教養教育科目

人生100年時代を健康で安全に豊かな人生を送ることを目指し、4つの科目群（Ⅰ 健康な人生を送るための科目群、Ⅱ 社会の営みを知るための科目群、Ⅲ 豊かな人生を送るための科目群、Ⅳ 未来社会を生きるための科目群）からなる教養教育科目を設定する。また、学部・学科や地域性の特徴を活かした科目を、学部共通の教養科目として設定する。基礎的で幅広い知識やスキルを身につけるだけでなく、社会での実践力を養成するために実践的な科目も配置する。

法律学科

専門科目は、教養教育科目で修得すべき基礎知識やスキルを基に、法律と政策に関する専門知識によって適切に社会を理解できるように、体系的段階を経ながら配置する。特に、法律総合コースにおいては法律学の体系的理解を、公共政策コースにおいては政策的観点からの社会理解を可能とするよう、専門的体系化を伴う科目配置を行う。さらに、単なる知識の修得にとどまらず、社会の中で一人の市民として生きてゆく上で役立つように、演習科目を適切に配置する。このため、基礎から専門への適切な接続のため、法学政策学基礎演習を配置し、3・4年次においては各自の専門的関心に応じた専門演習を配置する。

看護学科

医療専門職として深い教養と幅広い知識を養い、知徳を兼備した看護専門職の基盤となる教養教育科目を配置する。複雑化する保健医療福祉分野において、看護師としての責任と役割遂行のために、必要な生命の尊厳や人権の尊重を基盤とした人間を理解する能力や、適切な判断力・問題解決能力を養うことができるように専門基礎科目・専門科目を配置する。

修得した知識を活用して、看護技術を展開できるための演習科目を配置する。臨地場面で看護の対象である人々とかかわり、専門的知識・技術を統合し実践できるように実習科目を配置する。さらに、看護師として必要な倫理観・看護観を育くみ、豊かな人間性を身につけさせる。保健医療福祉領域の専門職と協働し、変化する社会の要請に応えるために、静岡理学療法学科の学生とともに学ぶことのできる、学部共通の教養教育科目・専門基礎科目を配置する。

静岡理学療法学科

1年次には、理学療法士として必要である生命、健康、社会、文化、コミュニケーションへの理解を深めるための基礎教育科目と、人体の構造と機能の理解を深めるための専門基礎科目を配置する。

2～3年次には、病態（病気）と障害を理解し、さらに保健医療福祉の理解を深めるための専門基礎科目を配置する。また、理学療法の基礎的知識・技術、それぞれの領域に特化した理学療法評価および技術を学ぶための専門科目を配置する。

4年次には、学んだ知識・技術を、臨床の現場でどう活用するのかについて学ぶ専門科目を配置する。また、チーム医療の一員として他の専門職と協働することを学ぶ専門科目を配置する。

臨床実習は、1・2年次に理学療法士への動機付けを目的に見学・体験実習を設ける。理学療法における評価および治療の習得を目的に、臨床実習Ⅰ・Ⅱを設置する。